



「インスピレーションになろう」 BE THE INSPIRATION

2018-19年度 RI会長／バリー・ラシン RI.D2590ガバナー／金子 大 横浜旭RC会長／市川 慎二

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NJTS1階／〒241-0821
TEL.045-465-6702／FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com

Email: asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル
(株)岡田屋 3階会議室

例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



被災地の子ども達にXマスプレゼント



チャリティーコンサート



ガールスカウトとクリーン作戦

2019年2月27日 第2372回例会 VOL. 50 No. 31

■司 会 副SAA 内田 敏

■開会点鐘 会 長 市川 慎二

■斉 唱 それでこそロータリー

■出席報告

会員数	30名	本日の出席数	24名
本日の出席率	88.89%	修正出席率	96.30%

■本日の欠席者

斎藤、増田、宋

■他クラブ出席者

斎藤（横浜瀬谷RC）、新川（地区）

■ゲスト

毛塚 衛様

(LM 総合法律事務所、RYLA 参加者)

■2月皆出席者表彰



北澤 正浩会員

6年

■会長報告

皆様、こんにちは。もう2月も終わり、暖かい陽気から春らしさを感じられるようになりました。先週、北海道で大きな地震がありました。この時期になると東日本大震災の記憶が嫌でもよみがえります。

2011年3月11日から8年が経とうとしています。あの震災は日本人の記憶から消える事のない、未曾有の大災害でした。そんな大災害の最中、日本人は世界から驚きと称賛の行動を取りました。暴動、略奪行為がなく、現地や各地で互いに助け合うという、日本の精神を発揮したからです。

江戸時代から明治に外国から日本に来た人々は、文化の違いはあれども、この日本の精神ともいえる、正直、勤勉、礼儀正しさ、清潔、職人気質、武士道、子どもの躰、年配を尊敬する心から、芸術、自然にまで感動し、見聞録として残っているほどです。とはいえ、先日、災害委員で集まり、五十嵐会員に教えていただいたのですが、災害時の避難所などでは、環境改善が進まない中、この日本の精神を美德として、忍耐、我慢しすぎて良くない結果を、招くことも多くあるようです。こういった事も踏まえて、この後の災害支援フォーラムでは、早急に求められる被災者の

心にも寄り添った、当クラブの支援のあり方を検討していければと思います。本日は五十嵐会員、宜しくお願い致します。

○地区関係

1) 次週、3月6日はIMのため、移動例会となります。お間違えのないよう、宜しくお願い致します。

2) 4月25日に入会3年未満の会員対象の「フレッシュ」交流会が開催されます。ロータリーの意義や、クラブを超えた交流などを目的に開催されますので、参加希望の方は事務局までお知らせください。

3) 今年も東日本大震災支援として、5月25日に宮城県岩沼市「千年希望の丘」で、新たな植樹を行うそうです。申込み用紙が届いておりますので、回覧致します。

○クラブ関係

1) 3月2日にがんセミナーが開催されます。職業奉仕活動の大きな柱の一つです。ぜひ多くの会員に、ご出席頂きたいと思います。

■次年度の組織票について 佐藤 真吾

2019-20年度 横浜旭RC組織表(案)					
会長	佐藤 真吾	SAA	目黒 恵一	理事	北澤 正浩
会長エレクト	田川 富男	副SAA		理事	安藤 公一
副会長	北澤 正浩	副SAA		理事	五十嵐 正
幹事	大川 伸一	理事	佐藤 真吾	理事	大川 伸一
副幹事	二宮麻理子	理事	市川 慎二	理事	新川 尚
会計	新川 尚	理事	田川 富男	理事	目黒 恵一
				会計監査	

委員会	委員長	副委員長	委員		
クラブ管理運営					
親睦		北澤 正浩			
出席	北澤 正浩				
会報					
プログラム		田川 富男			
会員増強	田川 富男				
公共イメージ	市川 慎二				
奉仕プロジェクト					
職業奉仕		安藤 公一			
社会奉仕					
国際奉仕	安藤 公一				
青少年奉仕					
ロータリー財団	新川 尚				
米山記念奨学		目黒 恵一			
災害対策	五十嵐 正				
50周年記念	関口 友宏	安藤 公一			

■創立50周年記念式典について

関口友宏

50周年記念式典につきまして式典の役割を下記の通りご協力いただきたくお願い申し上げます。

【式典プログラム】

第一部 記念式典司会 五十嵐正

10:00 登録、来賓受付

10:30 点鐘 会長 佐藤真吾

・国家斉唱

ロータリーソング 奉仕の理想
ソングリーダー 新川 尚

・物故会員に黙祷

・開会の辞 実行委員長 関口友宏

・来賓紹介、会長挨拶 会長 佐藤真吾

・50年の歩み チャーターメンバー 二宮 登

・記念事業目録贈呈 会長 佐藤真吾

・ロータリー財団 米山記念奨学会

・表彰状贈呈

◎チャーターメンバー / 二宮 登

◎永年皆出席者 30年以上 / 二宮登、関口友宏

◎クラブ功労賞 / 吉原則光、岡田清七、

太田勝典

・来賓祝辞 横浜市旭区長

第2590地区ガバナー

・祝電披露

・閉会の辞 式典委員長 佐藤利明

11:30 点鐘 会長 佐藤真吾

休憩 10分

第二部 記念講演 (11:40 ~ 12:40 終演)

第三部 記念祝宴 司会 新川 尚

12:50 開会の辞 記念事業委員長 太田勝典

・乾杯第5グループガバナー補佐

・ロータリーソング 手に手つないで

14:50 閉会の辞 副委員長 安藤公一

■毛塚様よりご報告 毛塚 衛

本日は2月の中旬に開催されましたRYLAの参加にあたりまして横浜旭ロータリークラブ様に推薦いただきましたので、ご報告に参りました。

まず推薦を頂きましてありがとうございます。RYLAは18歳から30歳までの青少年を対象としたプログラムということで28歳として参加しました。

参加の動機としましては自分より下の年代の意欲ある若者の話を聞いてみたいというのが大きなものでありました。実際に若い子た



ちがたくさんおり、お話できたことはとても有意義なものとなりました。グループワークや下町ボブスレーの講演など普通の仕事では聞けないような話を聞くことが出来、全体として非常に有意義なものでした。今回は推薦を頂きまして、誠に有難うございました。

■ニコニコ BOX(会員敬称略)

市川 慎二／①五十嵐さん、災害支援復興フォーラム宜しく願い致します。②毛塚さん、ようこそお越し下さいました。

安藤 公一／①五十嵐さん、復興支援フォーラム宜しく願い致します。②毛塚さん、ようこそいらっしゃいました。例会楽しんでいて下さい。

五十嵐 正／①RYLAに参加の毛塚さん、ようこそ。②本日は災害対策委員会の卓話です。よろしくお願い致します。

吉原 則光／本日の卓話、五十嵐さんの有益なお話拝聴させていただきます。宜しくお願い致します

二宮 登／五十嵐正さん、今日の卓話楽しみにしています。

田川 富男／最近では大きな災害の発生はなく、良いことです。しかしいつ災害が起こるかわかりません。五十嵐さん、災害フォーラムお願いします。

柳沢 哲也／災いは忘れた頃にやってきます。去年は災害の多い一年でした。皆様気を付けていきましょう。

内田 敏／災害復興支援フォーラム、五十嵐さんよろしくお願い致します。

兵藤 哲夫／本日ががんセンター検診のため、

10分前に早退します。悪しからず。

大川 伸一／五十嵐さん、本日のフォーラムご苦労様です。

佐藤 真吾／災害復興支援フォーラム五十嵐さん、よろしくお願い致します。

須藤 巨／春を感じる季節となりました。長引いた風邪もようやくと良くなってきました。ご迷惑をおかけしました。本日の卓話、五十嵐会員どうぞ宜しくお願いします。

北澤 正浩／①本日の災害復興支援フォーラム、五十嵐さんよろしくお願い致します。②皆出席ありがとうございます。③毛塚さん、ようこそ。

■卓話「災害復興支援フォーラム」

五十嵐 正



今期の災害対策委員会の目玉企画であります。災害時緊急支援基金の創設にあたりまして、大変多くに方のご支持いただき感謝しております。これまで、立上げと平行して、基金の制度設計を勉強してまいりましたが、本日はその集大成として、「横浜旭ロータリークラブ災害支援基金に関する要綱」を委員会として取りまとめましたので、ご説明をさせていただきます。この要綱は、本日皆様にご説明し、ご意見ご助言をいただき修正し、次回理事会にてご審議していただき、ご承認を受けた後、全体決議で可決を目指します。可決承認を頂けますとクラブ細則に組み入れていただき、今後横浜旭が世代交代が進んでも、継承される大切な奉仕事業の柱となっていくと思いますので、よろしくご検討ください。理事会は次回3月13日です。それまでで構いませんので、何かありましたら、私までお知

らしてください。

現状発起人には、例会に来られない矢田さん、高梨さんを含め、30名の方から申込をいただいております。口数として総数133口、133万円、それと現在50周年記念事業として30万の申請をしておりますので、周年事業に承認されますと163万円になります。

次に、この要綱でも触れておりますが、場当たり的ではなく、義援金を有効に効果的に利用する支援について、そのヒントを委員会で議論しましたのでご紹介させていただきたいと思います。

被災直後はパニックの様相が想像され、約1ヶ月近く過ぎるとパニックから復興へと動き出し、その辺りから復興支援への様々な要望が寄せられると思われれます。その中で、避難所の環境整備の問題が必ずといっていいほど持ち上がってまいります。

データによりますと、東日本の際、2012年3月、被災して丁度1年後、1,263人が亡くなり、その内638人の方が「避難所などにおける生活の肉体・精神的疲労」が原因だったそうです。いわゆる災害関連死です。阪神大震災では、死者行方不明6,437人その内関連死は921人。先ほどの東日本大震災では全体の死者行方不明者は22,132人その内関連死は3,701人。昨年の西日本豪雨では死者行方不明者258人その内関連死は28人でした。

熊本地震では、地震の後で体調を崩すなどして死亡に至った「震災関連死」のうち45%にあたる95人が避難所生活や車中泊を経験していたといわれます。実際新川会員と視察した体育館の駐車場には、車中泊をされている多くの方々や、駐車スペース確保のためのペットボトルが多く見られました。やはり体育館での雑魚寝より車中泊の方がまだましと言われていました。

新聞によりますと関連死の数や実態を把握している国の省庁はなく、避難所の環境の改善対策は不十分なままだそうです。「自然災害は防げなくても、安心安全に過ごせるようにすることはできる。」と言われますがそのハー

ドルはかなり高いものです。

一口に「過ごしやすい避難所」といいいまして、そこには3つの大きな課題があります。ひとつはT(トイレ)二つ目はK(キッチン・食事)三つ目はB(ベッド・睡眠)。TKBと言われます。

トイレに関する問題点の幾つかは、断水で排泄物が流せない。仮設トイレも排泄物が満杯。手洗いが別になっていて不衛生。和式が多いから高齢者には不便。トイレをあまり使いたくないから、水を飲むのを控える。当然ながら体調悪化につながりやすくなります。空腹は耐えられてもトイレは我慢できない。衛生的なトイレが避難所で最重要課題の一つのようです。

次にKのキッチン(食事)ですが、こんな問題があります。菓子パン、乾パン、コンビニおにぎりが多く、あたたかいご飯が食べたい。また、炊き出しの列に並んで待つ時間が長い。冷たい、味気ない食事が続けば気分が沈みます。

そしてB(ベット)睡眠です。避難所では雑魚寝ではよく眠れない。大勢の人でほこりっぽい。足音がうるさくて安眠できない。避難所では雑魚寝。避難所が出来たとされる関東大震災から100年近く改善されていないそうです。

皆さんはスフィア基準というものはご存じでしょうか。

スフィア基準とは、「避難所などで暮らす人のために、定められた基準」のことを指します。災害が起きたときにもっとも重要なのは、まずは「生命の安全を守ること」です。救命やけがの手当てはまず真っ先に考えられるべきものですし、それ以上に優先されることはありません。ただ、その後に考えられるべきは、「避難所での生活」です。助かった人の多くは、避難所などで暮らすことになります。しかし、大勢の人が集まるうえ、トイレやスペースなどが十分に確保できない環境下のなかでは、人は大きなストレスにさらされることになります。人権や生命を守るため、避難所で

の関連死を防ぐための国際的な基準となるのが「スフィア基準」とのことです。

「スフィア基準」は、アフリカ・ルワンダの難民キャンプで多くの人々が亡くなったことを受けて、国際赤十字などが20年前に作りました。その後、災害の避難所にも使われるようになります。紛争や災害の際の避難所の環境について、「最低限の基準」を定めています。

たとえば、居住空間について。「1人あたりのスペースは、最低3.5㎡確保すること」3.5㎡はおよそ2畳分。寝返りをうったり、スペースを保ったりするために最低でもこのくらいは必要だとされています。熊本地震の避難所では、避難者1人あたりのスペースが1畳ほどしかない場所もありました。

また、トイレについては、「20人に1つの割合で設置」避難所でトイレが足りなくならないようにするためには、最低でもこのくらい必要だと指摘しています。さらに大事なのが、男女比です。「男性と女性の割合は1対3」これは、一般的にトイレにかかる時間が、女性は男性の3倍の時間が必要になるからだということです。

スフィア基準が定めている。

- ・世帯ごとに十分に覆いのある生活空間を確保する
- ・1人あたり3.5平方メートルの広さで、覆いのある空間を確保する
- ・最適な快適温度、換気と保護を提供する
- ・トイレは20人に1つ以上。男女別で使えること

これは貧困地域や紛争地域にも適用される最低基準であり、経済力の豊かな日本で、この基準を遵守できないとは思われませんが、実際には程遠い現実があります。

ここで日本と同じ地震国であるイタリアの事例をご紹介します。

イタリアも地震が多い国です。火山も地震も温泉もあって魚介類も食べる。日本と似ています。イタリアの近年のM6以上の地震の記録をざっと見てみると、2009年ラクイラ地震(M6.3)2012年イタリア北部地震(M6.1)

2016年8月イタリア中部地震(M6.2)2016年10月イタリア中部地震(M6.6)があります。

石造りの歴史的建造物については、崩落ともいうべき勢いで一瞬にして崩れてきてしまっています。そんな地震国のイタリアの避難所では、最初に届くものはトイレだそうです。しかも被災後4時間以内にトイレが届くそうです。日本では避難所に仮設トイレが到着するのは、平均して4日後です。しかも綺麗で広く、車椅子対応もあるそうです。車椅子対応のものは、スロープまでついています。

4時間というのは資料を読んでいて、正直本当かなと思いますが、何でも、災害の緊急予報が出た時点で直ぐに動き出すそうです。日本のように起きてから動き出すのではないそうです。その差が、4時間と4日後の違いになって表れてくるかもしれません。

東日本大震災の避難所の仮設トイレで、足腰の悪い方が汚れたトイレに這って入ったという報告も聞いたことがあります。日本から視察に行かれた方は、避難所に運び込まれた清潔なトイレ施設などが印象的であったとしています。

次にトイレと同時に来るのがキッチンカーです。アルファ米やお弁当じゃなく、1台で1時間に1000食供給出来るキッチンカー。キッチンカーには屋根と階段がついて、受け取りがスムーズで、屋根と階段を収納すると普通に走れる状態になります。また、車内は食材がたっぷり収納できる構造だそうです。

キッチンカーなので、もちろん温かい食事を食べることができます。食事の内容はたとえば、イタリアだから、ペンネだったりパスタの時もあり、数日経つと食事がフルコースに近づいてきて種類が増えるのだそうです。

トイレと食事そして3つ目はベッドです。簡易ベッドです。1週間後位にはマットレスのある普通のベッドになるそうです。ということで、トイレ、キッチンカーによる食事、そしてベッドの3つが、すばやく避難所に運ばれます。この時、トイレはもちろん、ベッドと食事の場所もすべて別です。衛生面だけ

ではなく、被災生活が日常生活からかけ離れたものにしないためにも、寝る場所と食事の場所を一緒にはしないそうです。

2009年4月のイタリア中部ラクイラ地震では、約63,000人が家を失った。これに対し、初動48時間以内に6人用のテント約3000張(18,000人分)が設置され、最終的には同テント約6000張(36,000人分)が行きわたった。このテントは約10畳の広さで、電化されてエアコン付きである。各地にテント村が形成され、バス・トイレのコンテナも設置される。ただし、テントに避難したのは約28,000人であり、それより多い約34,000人がホテルでの避難を指示された。もちろん公費による宿泊である。


また、食事や物資の流通、キャンプキッチンの稼働、人の移動、子ども達のための学習や遊び場スペースの確保、医療サービスの提供、総合相談窓口の設置、紙媒体およびウェブ上でのニューズレターの発行。また、かなり大きな余震が続く中、子どもや高齢者にたいするメンタル面でのケア、あるいは宗教的ケアなどさまざまな配慮がなされていたそうです。例えば、道化役のパピエロが避難キャンプに導入され、被災者や支援者の間で効果を上げたそうです。

イタリアはなぜこれほど早く避難所に必要なものが準備できるのでしょうか。また、なぜ日本の避難所は劣悪な環境なのか。そこには、災害対策や復興支援についての日本とイタリアとの考え方の違いが表れていると思います。

日本では「体育館で身を寄せ合う避難生活」の光景は、当たり前のように、あるいは我慢と忍耐の姿として報じられています。

大きな災害には必ず避難所が造られます。この辺りに、義援金を迅速にまた、有効に活かすことで、「自然災害は防げなくても、その後の安心安全に過ごせるようにする」お手伝い出来るように思います。一ロータリーに何が出来るかは分かりませんが、少しずつ災害支援基金の充実をはかり、これまでは、こと

ロータリーに関して、被災の際の義援金の額だけが競うように表面に表れますが、その中身、どう使われたか、どでだけ有効な支援であったかに関心を示しました、議論をし、日本で言えば、国内2000クラブが機能的に地域災害支援に結びつけるネットワークの呼びかけをし、地域被災者に寄り添う支援に役立てる仕組みが構築できればと、夢のようなことを考えております。これからもご支援ご協力をお願いします。

 横浜旭ロータリークラブ災害支援基金に関する要綱	
<p>(指針・目的)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害に際して、これまで多くの犠牲に遭遇し、その教訓として今、私達が出来る事を迅速に行動に移す為に、基金を設立する。 2. 被災地ロータリークラブの支援事業に特化し、被災地に寄り添った支援、効果的な支援を目指す。 3. 基金は緊急時の対応であり、その後の継続的な支援については、持続可能でかつ人々の自立を支援するような、ロータリーらしい奉仕が求められていることはいうまでもない。自然現象を含めて、ロータリーも不測の事態に備えて、危機管理を今まで以上に充実しなければならぬ時代に対応する。 (項目3は第2650地区災害指針より引用) 	<p>(基金の運営管理)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基金の管理運営は、災害対策委員会が行うものとする。 2. 災害対策委員会の開催は、委員長または災害対策委員の求めに応じ随時開催するものとする。 3. 基金の経理は、その他の経理と区別して行うものとする。 4. 基金の支出は、拠出基準に添って行うものとする。
<p>(基金の設置)</p> <p>「横浜旭ロータリークラブ災害支援基金」口座を設け、基金を設置するものとする。</p>	<p>(拠出基準)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1回の拠出額を基金残高の最大50%以内とし、50%は地元(原則として旭区)の被災に備える。 2. 被災地R Cの支援事業とする。 3. ① 3万円未満=災害委員会の判断 ② 3万円以上~10万円未満=理事会審議 ③ 10万円以上=全体審議
<p>(基金の積立額)</p> <p>基金の積立は、当面1,000万円を限度とし、その額に達するまで、毎年度、次に掲げる資金により積立を行うものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基金設立発起人による出資金。 2. 募金、寄附金等の収入。 3. 毎月の例会費から、月額1.5万円を基金に充当する。(毎年度理事会承認を必要とする。) 	<p>(報告)</p> <p>基金の管理運営については、その実施状況を随時理事会及びクラブ会員に報告し、実施状況はクラブホームページにても公開する。</p> <p>(その他)</p> <p>この要綱に定めのない事項は、災害対策委員会が必要に応じて協議するものとする。</p> <p>附則</p> <p>・この要綱は、2019年●月●日から施行する。</p>

■次週の卓話

3/13(水)

杉原 広紀様

(東洋ガスメーター(株)関東支店関東営業所 エリアチーフ)

「ガスメーターの機能と集中監視について」

週報担当 今野 丁三